

Y15c Astro-HS の成果と現状，そして今後の活動

篠原秀雄 (埼玉県立蕨高校)、鈴木文二 (埼玉県立春日部女子高校) Astro-HS 運営委員会

高校生天体観測ネットワーク (Astro-HS) は、1998 年、しし座流星群高校生全国同時観測会としてスタートした。以来、観測テーマを広げながら、今日まで継続して、高校生によるネットワーク観測会を企画・運営してきた。これまでの参加者はのべで 12,000 人を超え、天文学会の年会で高校生が講演するなど、多くの成果を上げてきた。また、2001 年度以降は子どもゆめ基金の助成金により、観測機材の貸し出し、全国フォーラムの開催、観測マニュアルや集録の作成・配布などの活動も行ってきた。しかし、近年は、活動の多角化によって運営委員の負担が増えたり、テーマが増えたことによって逆に活動の焦点が定まりにくくなったりするというような問題点も見えてきている。2005 年度は、DeepImpact、夜空の明るさ調査、ペルセウス座流星群、火星大接近、スプライトの 5 テーマを設定したが、どれも観測報告は数件にとどまっている。そこで、Astro-HS の現状と課題を分析し、それをもとに議論した Astro-HS の今後の活動方針について報告する。